

①Taman Sari Water Castle

人文社会科学部 2 年

1. タマンサリについて

「Taman Sari Water Castle（タマンサリ）」とはジャワ語で「花の園」を意味する。ジョグジャカルタ王国のスルタン、ハメンクブウォノ 1 世によって造営されていた。

王族の保養地や瞑想の場、そして緊急時の避難場所などとして利用されていた。まるで迷路のような複雑な構造は、敵の侵入を防ぐための工夫でもあったという。

2. 各スポットの説明

①出入口

タマンサリ内の複数の出入口は、すべて低めに設計されている。これには、自然とあいさつをする体制になるようにするという意図がある。ジャワのあいさつは、日本式のお辞儀のあいさつと似ているが、日本の場合は手を体の横に添えるのに対し、ジャワでは手を前に組みながら礼をするという違いがある。

②沐浴場

スルタンと妃たちが水遊びを楽しんだ沐浴場は、タマンサリの中でも特に美しい場所である。プール内には、蓮の形に似た 5 つの噴水が設置されている。沐浴場は 3 つ存在する。この 3 つの沐浴場は、それぞれ使用する人物が異なっている。まず、塔の裏側にある沐浴場は、スルタン専用のプライベートプールである。スルタンは、塔にある窓から女官たちが泳いでいる様子を見て楽しんでいた。そして、最も南に存在する沐浴場は、女性・女官専用のものであった。

壁面には伝統的なモチーフが描かれており、石灰岩が使用されている。



③サウナ

塔のベッドルームがサウナとして利用されていた。このベッドの下の部分には、アロマを炊くスペースが存在し、スルタンは、寝ながらサウナを楽しみ、窓から女性や女官が沐浴

場で泳いでいる様子を見ていたとされている。



④西門のセンカラ

この西門では、モチーフで数字を表している。蕾が1、花が9、花の蜜を吸っている鳥の様子が6、鳥が1を意味しており、これを文末から数字を当てはめて読むとサカ暦で1691年（西暦1761年）になる。

サカ暦1691年（西暦1761年）は、タマンサリが建設された年である。壁面全体でジャワカレンダーを表現している。



⑤水路

かつてタマンサリには水路が張り巡らされており、現在は民家が立ち並んでいる。右の写真の家を見ると、窓の下まで水があったということが伺える。



⑥民家

タマンサリの内部には、数多くの民家が立ち並んでいる。カラフルな街並みや、カラフルなウォールアートは見応えがある。



⑦トンネル

タマンサリにあるトンネル内も、かつて水で満たされていた。このトンネルはスルタンしか利用できず、貴重なものなどを隠していたと言われている。船を利用してスルタンが出入りしていた。建設前に水を抜き、トンネルを建設した後にまた水を戻すという大掛かりな作業だったという。

地下通路の途中には、スルタンが瞑想する（あるいは襲撃時に隠れる）場所に繋がる通路が存在していた。瞑想をする場所は3階建



⑧シトゥス・プロ・クナガ

ハメクブウォノ一世が王宮を築いた後、家族との休息のために建てたと言われている。クナガは、この一帯に咲いていた花の名前に由来し、花園のような美しい場所である一方、万が一の際には要塞としても機能する造りになっていた。入り口は建物の内部側が八の字に広がるような造りになっており、内側と外側で風の強さが変わることをガイドさんに教わり、実際に体験することができた。



3. まとめ

水の宮殿「タマンサリ」には当時の繁栄を偲ばせる遺跡群が残っており、複雑で独特な構造と神秘的な雰囲気が非常に魅力的な離宮である。スルタンや妃たちが優雅なひと時を過ごしていたことが垣間見えた。水を利用した美しい庭園や沐浴場は写真映えするだけではなく、王国時代の物語や神秘性も味わえる。ジョグジャカルタ王国時代の栄華やジャワ文化を学ぶ上でも重要なスポットである。「水」「歴史」「建築」「文化」の4つの要素が凝縮された、美しい場所であった。